

2022年3月18日（金） 19:30～

## 第8回 セミナー 学級の困った！を一人で抱え込まないで

議事録作成 玉置ゼミ7期生 下野綾巳

### 【今回の困りごとの題材】

新年度に向けた困った！

### 【今回の困りごと】

#### ▼校務分掌と学級経営のバランス

校務分掌と学級経営のバランスをどう取っていくのか。

#### ▼高学年女子との関わり方

高学年女子（思春期）とコミュニケーションをとったり、指導する際に気をつけていること。

#### ▼学年で足並みを揃える是非

学年で足並みを揃えていく時、相談をしすぎでは良くないのだろうか、不安になる。

#### ▼その他

新しい子どもたちの前で、人間として、自分が意識することとはなにか。

### 【内容】

#### ▼校務分掌と学級経営のバランス

校務分掌と学級経営のバランスをどう取っていくのか。

➡教師という仕事を続けていくと、学校の仕事を頂くようになる。

クラスを空けて仕事をするが、子どもには「ありがとう」を伝えることしか出来ない。

#### この経験でなにが寂しかったのか？

・担任が教室に居ないメリットもあった。

例. 主体的に子どもたちが動く / 「ありがとう」を子どもに伝える機会が増える

⇔ 一方で...

・担任が居ないとフワフワしたり、生活がスムーズにいかない場面があり、悔しい。

#### 《和田先生のご意見》

●校務分掌は、長くて3年・短くて1年後にやってくる。

新卒からの「学級を見る」は、長くて3年、短くて1年の経験。

その後は、学校を回していく仕事ができる人材の育成となり、「校務分掌」の仕事が増えていく。

### ●いつでもクラスを空けられるような学級経営

担任が居なくても、みんなで仲良くできるように、協力できるようにと4月から学級経営を行っていくため、学級経営がどんどん上手になっていく。

### ただ、学級に居たい時もある...

「この時間は、学級に居たい」という主張は大切にす。

自分の代役を育成する。大事なときは、学級に重きを置くことを大切にす。

### ●担任の先生は、子どもの自慢

自分の担任の先生が全校の前で仕事をしている姿は、子どもにとって自慢。

自分の校務分掌に自信を持って、子どもたちに伝え魅せる力も必要。

### 《玉置先生のご意見》

#### ●担任が居ないことをプラスに捉える

担任が居なくても回るクラスとして、自身の仕事を子どもに伝える。

「先生は、学校の仕事もする立場だから、先生の為にも自分たちで考えて行動してほしい」

### ▼高学年女子との関わり方

高学年女子（思春期）とコミュニケーションをとったり、指導する際に気をつけていること。

➡高学年の女子に指導をしてから関係が少し悪い。

どのように指導をしているのか。

### 《和田先生のご意見》

#### ●高学年女子の対応で気をつける2つのこと

##### ①全員「さん」付で呼ぶこと

同じ苗字の人がいる場合は、「名前+さん」。同じ苗字だからという理由も説明する。

##### ②全員の前では指導しない

一人のときに指導した方が、周りの目を意識する思春期には効果的

### 《玉置先生のご意見》

#### ●意識しない

意識をするとかえって子どもが察してしまう場合もある

## ●心の天気で繋がる

「心の天気」で書かれる一言で、話題を見つけたり  
何も書いていない時も「安定している」といった面などで、声掛けをし、  
コミュニケーションを取る。

## ▼学年で足並みを揃える是非

学年で足並みを揃えていく時、相談をしすぎては良くないのだろうか、不安になる。

➡今年、自分のやりたいことを全て叶えてくれる先生とペアだった。

今後、なにかやりたいことが出来た時、隣のクラスの先生に迷惑をかけないか等の不安

### 《他の先生方のご意見》

●お互いに提案に乗り合う関係づくり

### 《和田先生のご意見》

●学年主体を巻き込む提案作り

学年主体を巻き込む提案であれば良いが、  
他クラスに負担をかけてしまうとストップがかかる場合もある。

## ▼新たな議題 -学年で足並みを揃える是非から-

保護者から、

「なぜ隣のクラスには学級通信があるにも関わらず、うちのクラスにはないのか。うちの  
クラスの担任にも学級通信を出すように校長先生から話してほしい。」

校長は、該当共有等にどうアクションを起こすか。

### 《先生方のご回答》

●それぞれの教諭に働きかける

[学級通信を書いている教諭]

伝えたいことを焦点化して、書いてみたらどうか促す。

(多くを記す学級通信は、書いていない教諭にとって負担になる可能性があるため)

[学級通信を書いていない教諭]

今日の授業のあの良さを保護者にも伝えたら、きっと喜ばれるだろうと促す。

●教諭等に委ねる

保護者からの言葉を伝え、その後の判断は該当教諭等に判断を委ねる。

## 《和田先生のご意見》

### ●愛情の確認：保護者の言葉の本質

学級通信は、「手立て」であって、本質は愛情の確認である。

=うちのクラスの担任は、子どもに愛情を持って接しているのですか？

### ●愛情の表し方を挙げる：該当教諭への働きかけ

「毎日一人ひとりに挨拶をしている」「毎日握手をしてから帰る」等  
教師はそれぞれ愛情の示し方を持つ。その一つに「学級通信」がある。

互いに取り入れたいと思う手立てがあれば取り入れる。

必ずしも「学級通信」でならないというわけではなく、保護者にもそう説明する。

### ●方法論で解決しない

保護者対応にて、大切なことは、方法（手立て）に目を向けない。

方法論で話すと揉めることが多い。

「なぜその手立てのことを用いて、この件に声をあげたのか」という本質に気づく。

## ▼来年はどんな学級にしたいか

《先生方のご意見》

### ●「あたたかさ」をベースとした

1つの意見を10人に上げられる学級であり、10ある意見の1を大切にできる学級

### 「あたたかさ」をつくりだすためには？

- ①教師が明るくいる
- ②笑いをつくる
- ③「ありがとう」を誰よりも教師が伝える

➡教師が上記3点を行うことで、子どもたちにも繋がっていく「あたたかさ」

### ●厳しさ + あたたかさ を大切にしたクラス

今年は、子どもに先生の通知表をつけてもらっていた。

「厳しかった」という言葉があったため、来年はあたたかさも大切にしていきたい。

《和田先生から》

子どもの厳しい=先生の求めているレベルに自分が到達できていなかった の意味

子どもは語彙が豊富ではないため、「厳しい」という表現になってしまう。

来年度は、「個に応じた目標設定」を行うとあたたかさに繋がるかもしれない。

●横の糸を意識した学級づくり

今年、学級崩壊を恐れて「学習規律の定着化」等々、縦の糸が強い学級作りをした。  
来年は、横の糸を意識して、「子どもと関わる時間」を大切にしていきたい。